

逗子の景観まちづくり

瓦版 第十号

平成二十五年四月三十日

発行 景観フォトコンテスト実行委員会

編集 逗子市環境都市部まちづくり課

協力 NPO法人逗子の文化をつなぎ広め深める会

募集 逗子の景観スケッチや六百字以内の逗子の

景観に関するコラム等を募集しています。

二四九・八六八六

逗子市逗子五丁目二番十六号

「逗子市まちづくり課 瓦版係」

電話 〇四六・八七三・一一一一

ファックス 〇四六・八七三・四五二〇

machi@city.zushi.kanagawa.jp

「南町テラスから見晴らす小坪の景観」

小坪で「南町テラス」というカフェを始めて半年余りが経つ。

「どうしてあんなにいい所から小坪なにかに越してきたの？」カフェを訪れる近隣住民からこのように聞かれた時は驚いた。



J.kubota
小坪漁港

「小坪漁港」

小坪に越してくる前は、鎌倉の住宅地に住んでいた。新規開発の大きな住宅地のほうが、車の入れない密集住宅地である漁村よりいいのではという価値観を一部の住民は根強く持っているらしい。

歴史の重層、国道134号線の騒音からの隔絶、坂道や路地では子供が安心して遊べ、大崎公園や披露山公園、逗子マリナーに囲まれ、爽やかな海風と景色に恵まれた小坪。以前住んでいた街も良かったが、私にとっては小坪の魅力は比肩できない。

建築基準法では、道路は全て自動車の対面通行を可能とする幅員4m以上なくてはならないと定められている。この法律によって、建て替えの際にセットバックが必要となり、嘗ては多くみられた路地や横丁は大半が失われてしまった。

小坪には今なお、車でアクセスすることのできない宅地が約250世帯（面積約41,500㎡、筆者実地調査による概算）ある。首都圏では最大のエリアの一つであろう。坂のある地形ゆえに道路拡幅が実質的に進まなかったことが理由であるが、地中海沿岸の小都市、瀬戸内海沿岸の尾道や多くの小島など、その景観ゆえに多くの人を魅了する観光地にも似た、特徴的な細い坂道が、結果的に保存された。細い坂道をさ迷いながらもたどり着き、テラスから見晴らす小坪の景観は素晴らしい。

「小坪暮色」



J.kubota
小坪暮色

文 日高仁 絵 久保木順平

逗子ステキ発見!! 景観フォトコンテスト

第一期 期間賞の発表です!!

ご応募いただいた160作品の中から、選ばれた2作品はこちら♪♪
期間賞は実行委員会による投票と、写真の専門家である特別選考委員によって選ばれました。
おめでとうございます☆選考委員からのコメントもご覧ください!



第一期 期間賞 「雪の披露山公園」 大西 恭市朗
温暖な逗子では雪はあまり縁がないが、当日は珍しく大雪に見舞われ雪で飾った披露山公園の展望台は、また変わった逗子の顔を見せた。



第一期 期間賞 「葉桜からの眺望」 林田 英志
葉桜からの眺望はとても美しいです。この日は雲が多く眺めはどうかと思いましたが予想に反して、逗子の街並みそして富士山までくっきり見ることが出来ました。

逗子で雪が積もることは珍しいことですが、逗子を代表する公園の白く化粧された姿もまた美しい。

昭和33年に建設された展望台は、長年にわたり広く市民に親しまれており、逗子の景観資産候補といえます。

景観フォトコンテスト実行委員会

選出した写真は、逗子の景観を上手にかもし出した写真です。逗子といえば、やはり海を期待させます。薄暮にまちの光が輝き、暖かい海のそばの街というイメージが出ています。空の雲も表情があります。良い写真と観点では、他にもたくさんありますが、景観という観点からこの写真を選びました。

特別審査委員 第一回写真講座・まち歩き講師
写真家 鈴木健男（スタジオブリッツ代表）

平成25年4月23日～4月25日に

市庁舎1階市民ホールで第一期展示会を行いました!

会場には応募があった全160作品のうち50作品の写真を展示し、その他の作品はスライド上映しました。訪れた人は写真におさめられた美しい風景に感動していました。第一期は、空気が澄んだ秋から冬の期間だったこともあり、海から富士山を眺望した作品が多く集まりました。これからは新緑が綺麗な季節になり、また人も活発に活動する時期なので、逗子らしい路地や町中の生活風景が数多く集まることを期待しています。フォトコンテストもまだ始まったばかり!第一期にご応募いただいた方も、まだ参加されていない方も、逗子のステキな写真が撮れたらぜひ応募してくださいね!!



逗子ステキ発見! 景観フォトコンテスト スポンサー紹介



JR逗子駅から一番近い商店街♪
逗子なぎさ通り商店会



JR逗子駅・京急新逗子駅より歩いてすぐ!
新逗子通り商店会
Shin-zushi Shopping Street